

2023年7月22日

保護者への伝達内容向上の取り組みについて

氏名：石塚栄子

目次	
序論.....	3
第1章 保護者対応における不安要素の明確化	4
第1節 現状	4
第2節 課題	4
第2章 保育士の伝達内容向上の取り組み	5
第1節 エピソード記録とは	5
第2節 エピソード記録の取り組み方法	6
第3節 ドキュメンテーションとは	6
第4節 ドキュメンテーションの取り組み方法	7
第3章 取り組みと内容	7
第1節 エピソード記録とドキュメンテーション	7
第2節 保育士の変化	9
第3節 保護者の意見	9
第4章 結果と今後の課題	10
引用文献.....	12
参考文献.....	12

序論

近年増加の一途をたどる少子化問題、核家族化やひとり親家庭など家庭環境が多様化している中で、子育て支援を担う保育園において、保護者が安心できる環境を構築することはさらに重要視されている。

保育活動を充実する上でも、衛藤（2015）は、「近年保護者の子育ての負担感が増加の傾向にあり、保護者支援のニーズは高まってきている。家庭との連携は保育者の業務に含まれており、充実した保育活動の実現にとっては、保育者と保護者との信頼関係の構築は不可欠である」と述べている。

しかし、保育士は、保護者への対応に不安や苦手意識を持っていることも多い。成田（2012）の研究では、「保育経験年数の長さによらず、あらゆる年代が保護者対応上の困難を抱えている」ことを示している。本園の保育士も例外ではなく、保護者対応に苦手意識を抱えている。苦手意識となる部分を解決し、保育士と保護者との安定的な関係を築いていくことは、子どもの成長過程にとって重要である。

保護者との関係形成について、保育所保育指針解説書（2018）では、「日常の保育に関連した様々な機会を活用し子どもの日々の様子の伝達や収集、保育所保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るように努めること」とあり、「日頃より保育の意図や保育所の取組について説明したり、子どもの様子を丁寧に伝えたりしながら、子どもについて保護者と共に考え、対話を重ねていくことが大切である。保育士等と保護者が互いに情報や考えを伝え合い共有することを通して、それぞれが子どもについて理解を深めたり、新たな一面に気付いたりする。こうした保護者と保育士等の関係の形成や深まりは、子どもと保護者の関係の育ちや安定につながるものである」としている。また、保護者との信頼関係の構築について中平・馬場・高橋（2014）は、「保護者との信頼関係構築のためには、「子どもに関する情報の交換を細やかに行うこと」「保育士と保護者の間で子どもの愛情や成長を喜ぶ気持ちを伝え合うこと」としている。

本園では、保育士と保護者の安定的な関係を築いていくために、保護者対応において保育士が不安や苦手を感じていることは何かを明確にし、子どもの様子や姿をより細やかに伝えるため、保護者への伝達内容の向上を課題とし取り組んでいく。

第1章 保護者対応における不安要素の明確化

第1節 現状

本園は、2020年4月に開園、園児29名でのスタートであった。周辺環境に恵まれ自然豊かな場所に位置している。保護者の子育ての負担感が増加の傾向にあり、保護者支援のニーズは高まっている。開園当初よりCCS連絡ノートに加え、子どもの活動の様子や、園でのエピソードを簡潔に伝えていくことをルール化し、帰りの送迎時にその日のエピソードを保護者に伝え保護者とのコミュニケーションを取りやすい環境を作ることから始めてきた。

しかし、保育士の伝達内容が、子ども達が園生活に慣れてくるにつれ、主活動の内容のみや、保護者へ伝える内容もマンネリ化してきている。例えば、「今日も元気に過ごしていました。」「今日お散歩に行きました。お友達と楽しく遊んでいましたよ。」等、園児個別に具体的な内容ではなく、誰にでも対象になるような内容である。この様な状況から、保育士が保護者へ子どもの様子を伝える内容や、保護者対応についてどのように感じているのか、職員会議で意見交換を行いそれぞれの思いを話す場を設けた。(表1)

表1 職員会議での保育士からの意見

- ・保護者対応に不安、いざ話をすると、話す内容が同じようになってしまう。
- ・内容を的確に捉え、具体的なことを伝えるためにもっと自信を持てるようにしていきたい。
- ・日々の子どもの園の様子・多様な保護者にあわせて伝える難しさを感じる。
- ・保護者から質問や、相談をされると不安になり子ども同士の関わりや集団生活の中での様子をうまく伝えられていない感じがする。
- ・保護者に子どもの姿をより詳しく伝えたいが、伝える内容も同じような内容になり、見る点や大事なポイントが分からない。
- ・コミュニケーションが取れているのか、不安はある。

表1より本園の保育士も保護者への伝達内容に不安や悩みを感じていることが明らかになった。特に子どもの様子を伝達する時の内容に自信を持っていないことがわかった。

第2節 課題

榎本(2013)の調査では、保護者がどのように幼稚園の教師への信頼感をもつ

のかについて「保護者は『幼稚園が楽しいという子どもの様子』、『教師が子どもに温かい関心を寄せている様子』をとらえていること」と示されている。また「毎日の『子どもの様子』を話すことで、不安が安心感に変化し、信頼感の構築に繋がった」とも示している。園で子どもが楽しく過ごしている様子や友達との関わり等詳しく保育士から聞くことにより子どもの新たな一面を知り、心配が解消されていき信頼感となっていくのであろう。

しかし、先に示したように保育士は、どのように子どもの様子や姿を伝えたらよいか戸惑い、保護者への伝達内容に不安を感じている。伝達内容が具体的で充実したものになるよう園全体で子どもの様子を伝えるための取り組みの方法を考察する。

第2章 保育士の伝達内容向上の取り組み

第1節 エピソード記録とは

保育者から保護者に子どもの様子を伝える方法として、鯨岡(2007)は、エピソード記録について、「保育日誌とは、異なり、日頃のクラス子どもたちの心温まるような出来事や感動、あるいは逆に心痛めたことなども日常的な保育生活の中から一人ひとりの子どもの内面を理解するために、行動や表現または、言葉がどのように意味しているのかを考え、子どもの本来の姿、心の動きをとらえていくことを目指して記録を残すこと」と示している。その日のエピソードを記録することにより、子どものいろんな側面や内面を知ることができ、園での子どもの行動などをより深く知ることができると考えられる。一方で榎本(2013)の報告では、「保護者にどのように幼稚園の教師への信頼感をもつのか」という点で、「保護者は『幼稚園が楽しいという子どもの様子』、『教師が子どもに温かい関心を寄せている様子』をとらえていること」また「毎日の『子どもの様子』を話すことで、不安が安心感に変化し、信頼感の構築に繋がった」と示している。今回は、この報告も踏まえて心痛めたエピソードよりも、保育士が心温まるエピソードや具体的な場面を中心にとらえ記録していくことから始める。この取り組みにより、子どもの姿をより丁寧に見ようとする気持ちを深め保護者との信頼関係に繋がるのではないかと推測する。

子どもの姿・様子や、日頃の何気ないエピソードを集めエピソード記録をつけることで、子どもの本来の姿を知ることにより、個々の様子だけではなく、集団生活の中で子ども同士の関わりも具体的に保護者に伝えられるようになり、コミュニケーションの話題にもなるのではないかと考える。主活動時の様子や食事の会話、お散歩時での出来事、何気ない言葉やしぐさ、行動面のところから

拾っていき記録にし、保育士の拾い集めたエピソード記録を進めていく。

第2節 エピソード記録の取り組み方法

① エピソード記録の記載

子どもの日々の様子や姿、保育士の気づき等の具体的な場面を、その都度保育に支障がないように各自メモ書きをし、その後毎日 14 時までにはノートに箇条書きで記載する。

② 昼礼での発表

毎日 14 時から各クラス 1~2 名ずつ参加(以上児クラスは代表 1 名)

計 7 名程度参加。

子どものエピソード記録を簡潔にまとめて発表をする。

③ 職員会議での振り返り

職員会議で、2 つのグループに分かれて意見交換を重ねる。全体で話し合うことよりも、3~4 名程度のグループ分けをする。少人数でのグループとすることで意見が出やすく深堀しやすくなり、新任保育士にとっても発言しやすい環境になると推測する。

福崎ら (2012) は「園内研修における話し合いのもとに、保育者の気づきを掘り起こしてみると、エピソードとし描き出してみると、保育者の子どもへの思いが深められ、目に見える環境への工夫も生まれ、それが保育の実践にも活かされていった。」と示している。昼礼でも共有されたその後の子どもたちの様子や保護者の反応などを共有し話し合う場面を設け、個々のエピソード記録をみなで共有する。

第3節 ドキュメンテーションとは

ドキュメンテーションについて岩田・大豆生田(2019)は「子ども達の日常の学びのプロセスを可視化し、『見える化』するツールのひとつ」であり「ドキュメンテーションは直訳すると、文書、記録であるが、近年の保育分野では、写真を効果的に用いて、一人ひとりの子どもの姿を描き出し、発信するもの全般をさしている」と示している。また、植草 (2018) は、「エピソード記録をドキュメンテーションすることで、直接関わらなかった保育者や保護者の理解が得られた」とし、「子どもの様子等のドキュメンテーションを意識的に行うことで大人の関心を引く方法として有効であることが分かった」と記している。エピソード記録からドキュメンテーションにすることで、他の保育士や他クラスの保護者からもより理解を得ることを目的とし、エピソード記録と組み合わせドキュメンテーションにも取り組む。

第4節ドキュメンテーションの取り組み方法

定期的にクラス担任が保護者の方に、伝えたい主なクラスの活動内容をドキュメンテーションにし、玄関近くの掲示板に掲示する。保護者が視角からもより理解しやすくなるように、子どもたちのエピソードやつぶやきからドキュメンテーションの作成を行った。

保育士との会話からも子どもの情報を得られるが、視角からの情報も入るとよりイメージもわき、子どもの様子が分かりやすい。このことから、具体的に子どもの様子が分かるよう、言葉で伝えることに加えドキュメンテーションをすることで多岐にわたって保護者の理解が深まることを目的とする。

第3章 取り組みと内容

第1節 エピソード記録とドキュメンテーション

5歳児クラスで作成したドキュメンテーション（図1, 図2）

【5歳児のクラス活動】

里山探検①

①記録者：2022年5月5歳児担任

②場所：園周辺にある里山

③時期：2022年5月10日

④対象の子ども：5歳児、男児4名女児4名計8名

日頃から子どもたちが、虫に興味・関心がありミニ図鑑を持って散歩に行く事があり、里山探検を実施。



図1 里山探検 5月

園周辺は、自然豊かなところで年間を通して、四季を感じる事ができる。5歳児クラスの里山探検を、現地までの背景や耳や目で感じたこと、様々な植物や生き物たちの出会いなど、背景の紹介から描いていき感じたことや何気ない子どもたちの言葉を拾い集める。保育士が想像もつかない子どもの発見があり、発見や疑問に感じたことは図鑑で調べていった。一人が発した疑問からまた一人と増えていき会話のやり取りが活発になり、触ってみたり、匂いを感じたり五感がさえわたる瞬間を感じる事ができた。子どもたちにとっては、魅力的な空間や体験ができ有意義な時間である。いつもと違う表情や子ども同士の関わり、言葉の表現がありその様子を保育士が見守り、子ども主体の保育となっていた。このような家庭では見られない「楽しい！」と感じる生き生きとした子どもの姿を、具体的に分かりやすく保護者に発信することで、親子同士も共感しあえることができると推測する。実際に、保護者と子どもとの会話が弾んでいる姿を他クラスの保護者も興味深く見入っている様子も見られた。



図2 第2弾 里山探検 9月

また、保育士が、子どもたちの経験をドキュメンテーションにすることで、保育の振り返りにもなっていることも伝わってきた。

榎本(2013)「教師が具体的に分かりやすく伝える『子どもの様子』は、単なる情報共有にとどまらず、その成長を共に喜んだり考えたりしていくうえで欠かせない」とし、本園の保育士も個々の特性を理解した上で、子ども同士のやりとりやつぶやき、変化していく様子を保護者にも伝えたいと思う気持ちが増して

いった。

第2節 保育士の変化

エピソード記録を6ヵ月実施後、保育士から感想を集めた（表2）

表2【エピソード記録を通して保育士の行動面の変化】

- ①子どもの姿の内容を、些細なことから、メモを取ることによって子どもの変化や、気づかなかった点の発見や様々な場面での心の変化や内面性が見えてきた。
- ②子どもが自主的に、何をしたいのかが予測しやすくなり環境設定もよりバリエーションが広がる。
- ③他保育士に、子どもの姿を共有する事で、担任がいない時でも子どもの特性を理解しやすい
- ④昼礼での内容の発表時、相手に伝わりにくいことが質問とされ、説明が足りないところが理解でき修正できる。
- ⑤他の保育士の発表から、言葉づかいや表現等、参考になる。

他保育士の体験談を聞くことにより、気づきが増え、他クラスの子どもの様子も知るこができた。合同保育でも、個々の子どものかかわり方が分かりやすく保育全体の学び合いに繋がっていき、担任以外でも状況に応じて臨機応変に対応出来るメリットもあった。職員会議で保護者へ子どもの様子を伝えた時の状況を共有し、保護者の様子や反応を知ることで、保護者それぞれの特性を理解する場にもなっていた。また、昼礼や職員会議の場で他の保育士の保護者対応を見たり聞いたり、分からないことや困った事を会話の中で質問することで、新たに保護者対応の方法を習得することも増えてきた。

その結果、子どもの日々の様子をより丁寧に見ようとする気持ちも高まった。それにともない、降園時の伝達内容も細かく伝えることができるようになり、保育士の自信にも繋がっていった。

保育所保育指針解説書(2018)に「子どもに関する情報の交換を細やかに行うこと」「保育士と保護者の間で子どもの愛情や成長を喜ぶ気持ちを伝え合うこと」「保護者におかれている状況やその思いを受け止め理解を示すこと」「保護者が保育の意図を理解できるように説明する機会を提供すること」が必要と記されている。保育士の話し方や表情や態度、保育での知識等求められることは多いが、子どもの成長を喜び合い、お互いが理解を深め合うことが本来の保護者と保育士との関係性と考える。

第3節 保護者の意見

ドキュメンテーション掲示後に保護者からの意見を感想カードで集めた。

(表 3)

表 3 ドキュメンテーションの保護者の意見

- ・子どもとの会話が増えた。
- ・こんな体験をさせてくれてありがたいです。
- ・いつもエピソードを伝えてくれていたけど更に分かりやすくいいです。
- ・子どもとの会話がとてもかわいいです。
- ・こんな発見があり、とっても楽しそうですね。
- ・活動が身近に感じました。
- ・良い経験ができ手に取るように様子が伝わりますね。

ドキュメンテーションを作成し、掲示することによって里山探検の状況や子どもの様子が言葉で聞くだけよりも、より想像がわきやすく保護者にとって分かりやすくなっている。植草(2018)が示したように、子どもたちが、どのような活動を行っているのかを、保護者が具体的に知ることができ、保護者に安心感が芽生えてくるのではないかと考えられる。

第4章 結果と今後の課題

保育士は保護者とのかかわりの中で、子どもの様子をどのように伝えたらよいか不安や戸惑いがあった。子どもの姿・様子を集めエピソード記録をつける取り組みを行い、昼礼で他の保育士へ発表し、その後の子どもの様子、保護者の反応を共有することで他クラスの子どもの様子も知ることができた。他の保育士のアドバイスもあり実践前に保護者対応の練習にもなった。また、自分の気づかなかった点や子どもの変化など保育士の記録の書き方にも変化を感じることができ保育士自身も保護者と理解し合えたことを実感できた。そして、保護者に視覚的にも理解しやすいようにエピソード記録をもとにドキュメンテーションを作成し掲示することで、保護者からの会話も増え子ども中心の会話が充実し共通理解し合えるようになってきた。双方の会話も理解し合えるようになってくると、会話の中から保護者が保育士に、何を主に聞きたいのかを掴めるようになり、子どもを見る視点を状況に応じて変化させることが出来るようになった。保護者対応においての全ての不安や戸惑いが無くなったわけではないが、取り組み前よりも伝える内容のポイントを掴んで伝えられるようになってきたと推測する。

保護者の方からも「園の様子を詳しく教えてくれて安心しています。」と耳にすることが多くなった。

課題である保護者への伝達内容の向上に向けて取り組んできた。エピソード記録から子どもの日々の様々な姿や様子の情報を収集し、保護者へ子どもの成長を伝えることにより、伝達内容が充実し保護者との安定的な関係の構築の第一歩にはなったと考えられるが、まだまだ不十分な点も多い。

今回、保育士側の視点から子どもの様子を保護者へ伝える内容に絞って取り組みを行ってきたが、保育所保育指針解説(2018)でも示されているように保護者との安定的な関係を築くためには「保育の意図や保育所の取組について説明」していくことも今後の課題の一つである。國久・小椋(2023)が『『子どもが遊びや生活を通して学び育つ』ことの意味、意義に保護者の関心が高まり本来の子どもの姿に興味・関心を示し、幼稚園の幼児教育を理解すると共に、保護者は、園に対する教育活動に協力的になり、信頼される園になっていくプロセスを筆者は感じた。』と述べているように、保育の意図や園の取り組みを説明する機会を設ける。また、保護者側の視点からも取り組む必要がある。「子どもについて保護者と共に考え、対話を重ねていくことが大切」(厚生労働省, 2018)とあるように、双方が情報を共有することでより子どもの育ちを理解することができる。保護者側からの発信をどのように増やし、共有する場を設けていくのかは今後の大きな課題である。アンケート調査やインタビュー等を取り入れ保護者の声を吸い上げることから行っていき、保護者と保育士との関係性が安定に向かう取り組みを行っていくことが今後必要と考える。保護者対応に、保育士が一人で抱え込まない環境を整え、保護者との安定的な関係の構築のために職員全体で常に努力していきたい。

引用文献

- 岩田恵子・大豆生田啓友(2019). 保育の可視化のプロセス. 玉川大学学術研究所紀要, 24, 1-13.
- 植草一世 (2018) .子どもに添う保育を行うためのドキュメンテーション—つぶやきを拾うエピソード記録からの考察—植草学園短期大学紀要, 19(2), 51-57
- 衛藤真規 (2015) .保育者との関係に関する保育者の語りの分析—経験年数による保護者との関係の捉え方の違いに着目して— 保育学研究, 53(2), 194-205.
- 榎本眞実(2013). 「保護者の教師に対する『信頼感』構築に関する—考察—教師へのメッセージカード記述の分析を通して」 『東京家政大学紀要』, 53(1), 1-11
- 厚生労働省 (2018) .『保育所保育士指針解説』 フレーベル館, 20, 323
- 鯨岡峻・鯨岡和子(2007). 保育のためのエピソード記述入門 ミネルヴァ書房
- 國久美代子・小椋たみ子(2023). 保育実践における重要な要因—園だよりの2つのエピソードから—, 101-109
- 中平絢子・馬場訓子・高橋敏之(2014). 信頼関係の構築を促進する保育所保育士の保護者支援 岡山大学教師教育開発センター紀要, 4, 63-71
- 成田朋子 (2012) .「保護者対応に求められる保育者のコミュニケーション力」研究紀要, 34, 65-76
- 福崎淳子・小河原恵津子・小野寺富美子・鈴木君栄(2012). 保育におけるエピソード記録から読みとる保育者の気づきと学び合い—人的環境に視点をあてた園内研修の試みから— 東京未来大学研究紀要, 5, 111-121.

参考文献

- 青木一永 (2015) .保育実践現場における乳幼児理解向上に関する研究—エピソード記録記述への取り組みを通して— 大阪総合保育大学紀要, (10), 159-180
- 石田開・田中まき子(2011). 保育養成課程の学外実習における保護者に関する経験の頻度—保護者とコミュニケーションスキルの育成への手がかりとして— 岐阜聖徳大学短期大学部紀, 43, 161-173
- 伊藤裕子(2017) 保育所保育における保護者との協働・連携のあり方. 千葉敬短期大学紀要, 39, 239-247
- 入江慶太(2013). 新人保育士が感じる保育の難しさとは何か—3歳児未満クラスにおける検討— 川崎医療短期大学紀要, 33, 61-67
- 勝浦眞仁・上田敏文(2021). 保護者支援における保育士の抱える困難感のフェー

- ズを探る-保育士による保護者支援のための文献研究- 桜花学園大学保育学部研究紀要, 24, 35-50
- 高濱裕子 (2000). 保育士の熟達化プロセス: 経験年数と事例に対する対応 発達心理学研究, 51(1), 105-110
- 中平絢子・馬場訓子・竹内敬子・高橋敏之 (2016). 事例から見る望ましい保護者支援の在り方と保育士間の連携 岡山大学教師教育センター紀要, 21-30
- 福崎淳子・佐々木恵美子・清水やす子・鈴木君栄・佐々木章江 (2014). 保育のエピソード記録から読みとる子どもの心の世界—保育者間の話し合いを土台に— 東京未来大学研究紀要, 7, 251-261
- 前田和代、浅井拓久也 (2020). 保育におけるドキュメンテーション活用に関する—考察—活用に伴う課題に焦点を当てて 東京家政大学研究紀要, 60(1), 21.
- 真下知子、張貞京、中村博幸 (2011). 「保育者-保護者間のコミュニケーションの改善をめざした研究—保育者に必要な能力・資質に関する幼児教育学科学生の意識—」 京都文教短期大学研究紀要, 49, 116-128
- 真下知子、張貞京、中村博幸 (2011). 「保育者-保護者間のコミュニケーションの改善をめざした研究(2)—保護者からの相談に対する保育者の答え方の特色 京都文教短期大学研究紀要, 50, 136-146.
- 水枝谷奈央 (2018). 保育所に通う子どもの母親がもつ保育士への信頼感—自由記述の分析から— 子ども家庭福祉学, 18, 14-24
- 宮崎静香 (2016). 新人保育士の保護者対応を支える先輩保育士による職場体制: 保育所における主任保育士・園長へのインタビュー調査から 浦和論叢, 54, 107-122
- 山内淳子・田中杏奈・遠藤清香 (2020). 不安を抱える保護者が保育者との信頼関係構築により安定に向かうプロセス 山梨学院短期大学紀要, 2022, 99-114
- 和田公子、三輪和子、石原由貴子、藤村朱美、木下育子、大内菜恵子 (2011). 保育の質を高める—方法—実践記録から“私”の保育を振り返る—研究紀要, 19, 79-91